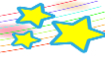




# きらめき



立山町立釜ヶ淵小学校

5年 学年だより

R3. 5月号

## 「高学年」という実感

5年生になり最初の2日間は、入学式の準備に後片付けと、6年生と共にたくさんの仕事に取り組みました。Aさんは、最初の2日間を次のように振り返りました。

私は、高学年として2日間すごして、楽しいと、やりがいがあるなと思いました。特にがんばったことは、入学式の準備とそうじです。理由は、私たちがそういう仕事をやることで、入学してきた1年生が気持ちよく学校生活を送ることができると思ったからです。これからも人の役に立てる仕事をしたいし、もう高学年になったので、1、2、3、4年生の手本になれるようがんばりたいです。

Aさんは、2日間どの仕事にも真剣に取り組み、その中で、自分たちが働くことの価値まで見出ししていました。高学年としての仕事を前向きに受けとめるAさんの素直な心が感じられます。役に立てる仕事をしたい、下級生の手本になりたいという前向きな気持ちを今後も後押ししていきたいと思います。



わたしたちのメダカが一大事！！

## 命がなくなるって大変なこと

子供たちは昨年度6年生からもらったメダカを大事に世話しています。ところが、ある日の1時間目の後、数名の子供が6年生と水槽を覗き込みながら深刻そうにしていました。水槽内にはやりすぎた大量の餌と、おそらく共食いにより命を落としたメダカが一匹浮かんでいました。授業が始まる頃、教室に戻ってきたOさんは、「餌のやりすぎでメダカが死んでしまったので、今餌を取り除いてもいいですか…」と訴えてきました。今やらないと、他のメダカも死んでしまうと心配な思いがある様子でした。そこで、クラスみんなで状況を確認した後、協力して、生きているメダカを他の水槽に避難させたり、やりすぎた餌を取り出したりしました。死んでしまったメダカにお墓を作ってあげたいと、お墓を作り、餌や花のお供えましました。突然のメダカの死を受け、急ピッチで様々な行動を起こした子供たち。命を尊重する温かい心が育っていると感じました。これからも、このような温かい気持ちを大切にもち続けてほしいと思います。



子供たちの頭の中に広がる「あとかくしの雪」の物語の世界

# 豊かな想像力におどろき！



4月、「あとかくしの雪」という物語をじっくり読み味わいました。

この物語は、ある冬の日の暗くなったころ、貧乏な一人の百姓のもとに、一人の旅人が「一晩泊めてほしい」と訪ねてくることから始まります。旅人を泊めてやることにした百姓は、「もてなしは何もいらない」と言われたにもかかわらず、隣の大きな家から一本の大根を盗み、大根やきを作り、旅人にもてなします。その後、百姓が大根を盗んだ後の足跡が降ってきた雪で消えてしまう場面で終わる短い物語です。

この物語を読み、百姓に対する子供たちの考えは、大きく3つに分けられました。

- ① **大根を盗んだことは悪いことだから、理由は関係なく、百姓は悪い人だ。**
- ② **大根を盗んだことは悪いけれど、旅人をもてなそうと思ったのだから、百姓は優しい人だ。**
- ③ **泊めてあげたりもてなそうしたりしたのは優しいけれど、盗むのは悪いことだから、百姓は優しい人なのか悪い人なのかよく分からない。**

この中で、Sさんは、②の考えをもっていました。初めて、百姓をどう思うかについて考えた際には、「泥棒になるのは悪いけれど、悪気がないのだから優しい」と率直に思ったことを書いていました。2回目、再度百姓についてじっくり考える時間を持ちました。すると、Sさんは、以下のようにノート1ページにびっしりと考えを書いてきました。

ばくは、百姓はいい人だと思います。どうしてかという、物をぬすむことは悪いけど、(本文に)「しかたがない」と書いてある所を見て、本当はどろぼうなんかしたくないし、悪気はないけれど、「何も食べさせないまま帰らすと、あまりにもかわいそう」と思いながら、何か旅人に食べさせて帰らす方法はないかと、何度も何度も考えて、ぬすむという方法しか思いつかなくて、しかたがなくぬすんでしまったんだと思います。あと、「何をひとつ旅人にもてなしてやるもんがない」という所から、家中のあらゆる所をさがしてもさがしても食材が見つからなくて、おまけに貧乏うだから、何もしてやれないのがいやで、一つだけ方法を思いついて、それが「ぬすむ」という方法でしかたなくぬすんできたのだとも考えます。

Sさんは、物語の中に書かれている「しかたがない」という言葉や「何をひとつ旅人にもてなしてやるもんがない」という一文から、盗むという行為に至るまでの百姓の行動や心の内を具体的に思い描いていました。百姓はすぐに盗もうと思ったのではない、何度も何度もよい方法はないかと考えを巡らせ、家中も探し回り、盗みは苦渋の決断だったのではないかと捉えていることが分かります。Sさんの考えを読むと、物語には直接書かれていない百姓の必死な様子が、不思議と頭に浮かんできます。物語の短い言葉や一文から、描かれていない部分を豊かに感じ、想像できるSさんの力はすごいと感動しました。

今後も一人一人のこのような気付きを大切に受け止めながら、学び合いの時間を進めていきたいと思っています。